

第 1 回 あおもり立志挑戦塾

平成 22 年 5 月 29 日（土）～30 日（日）

今年度の「あおもり立志挑戦塾」は、平成 22 年 5 月 29 日土曜日、青森市浅虫「海扇閣」で開講しました。今年は、日本に住み、日本人以上に日本のことを熟知している外国人を講師に迎え、日本の国や地域のことを見つけ直すことをテーマとしています。これから、6 人の外国人講師が、日本再発見の扉を開けます。

第 1 回目は、グレゴリー・クラーク氏（国際教養大学副学長、多摩大学名誉学長）から、多彩な経歴に裏打ちされた示唆に富むお話がありました。

皆さん、こんにちは。

今日、私は、日本はどういうふうになったか、これからどうなるか。地方はどのような役割を果たせるか。ちょっとそういう次元で話をします。

日本の経済を研究していて、日本は非常に独特でユニーク、面白い国ではないかと感じるようになりました。何よりも中国とは同じ文化で、同じ漢字を使っているのに、考え方が大きく違っている。もっと不思議なのは、欧米と中国は文化的なつながりが全くないのに、人の考え方は非常に似ています。個人性が強い、自己主張がうまい、議論上手、自分自身のために働く、理性的、悪い意味、ドグマ的。日本人は、集团的、もっと情緒的。自然にお互いに協力している。



なぜ、違っているか。よく考えれば、日本人は人間主義でしょう。人を大事にする、自然に人と協力する、情緒的、気持ちの上で動く。これは、人間の本質です。この精神は、人間のルーツです。日本は、何かの理由でそれを保存して、洗練して発展して、素晴らしい工業社会を作ったんです。我々外国人は、途中で逸脱し、「理」にこだわる、合理主義社会の方へ発展した。人間は右手と左手を持っているでしょう。人間の性質も同じですよ。

「感」と「理」。「感」は右手、気持ち。「理」は左手。また、日本は、島国で、外から攻められることがなかったから、国家イデオロギーを作る必要がなかった。外国人、中国、韓国、インド、皆、イデオロギー的になった。イデオロギー的世界は、原理原則にこだわる。場合によっては、理屈にこだわる。場合によっては屁理屈。これも左手です。日本人は右手です。その上に発展してきました。

中国やインドは歴史が長く、もう 2000 年も前に中央政権ができて、余計に理性的になって、なんでもイデオロギーになっている。経済発展を作るのは、工場で喜んで働く人なんです。手で働くんです。しかし、中国社会やインド社会では、手で働くのと軽蔑されちゃったんです。

日本はそういう社会ではなかったんです。欧米も日本と同じ、長い間、村社会、封建社会。中国で素晴らしい文明があった時は、我々欧米人はまだ村だったんですよ。日本人と同じように村社会、封建社会では、なんで評価されるか？職人倫理。良いものを作って、それで評価される。悪いものを作れば軽蔑される。これは工業製品です。だから、産業革命はイギリスだったんです。



日本人のトップの人達は、細かい戦術が強い。外国人、特に中国、インド人は、戦略がうまい。新しい技術をすぐ導入して、大規模な生産プラス工業基盤と競争力が一緒になれば、中国、インドは急に発展しています。中国やインドと、どういうふうに競争できるか。昔は、皆、ソニーを買ったんです。今、同じ値段になったにもかかわらず、場合によっては中国、韓国のもを買うんです。特に、韓国が強くなったんですよ。ブランドネームだけ

で競争できなくなったんですよ。コスト引下げなくちゃならない。それには2つの方法があります。一つは、労働コストを引下げる。これは企業経営者の自然な行動です。もう一つは、円の引き下げです。だけど、今は円が強くなっています。アンバランスが生じているにもかかわらず、日本のものは相変わらず質が良いから輸出できますが、中国とか韓国への輸出は益々難しい状態になってきました。

日本人のライフスタイル。民宿とか農家とか、自然が非常に魅力的です。だから、一つの将来は、ライフスタイルの輸出です。中国人は東京にきて、テレビを買います。何故日本を買いたいのでしょうか。店のサービスがよくて、安心できる。正直にやっている。日本は行き詰まりではなくて、経済の面では、まだ発展できます。

最後は外交について。日本人は優しい民族なのに、周りの国と喧嘩でしょう。領土についてもそうです。場合によって、日本も間違っているんじゃないかと。けど、日本人は、白黒つけたり、なぜこういうことになったかという追及精神はないんです。もうちょっと賢くなれば、この問題は解決できます。日本人はムード、雰囲気覚えてる。気持ちで感じている。追及すれば、勉強すれば、面白いこと分かるんですよ。

たとえば、サンフランシスコ講和条約は、アメリカがヤルタ会議でソ連に約束したことを守るため、アメリカから強制された不平等条約だったんです。だから、やり直しできるんです。固有の領土という議論を認めれば、大変なことになるんです。しかし、アメリカは、こういうことをやっていた。そういう問いを提出すれば、やり直しできるんです。

排他的経済水域（EEZ）に関しても、中国との間で、大陸棚で決めるべきか中間線で決めるか、揉めている。国際法の上で両方とも認められていて、来年、国連で決める。まだ決まっていないから、中国は共同で開発すると主張しているけど、なかなかリーズナブルでしょう。しかし日本は、頑として「ノー」。そういう一方的な論理はちょっとよくない。沖ノ鳥島もそう。沖ノ鳥島は石だけです。石だったら、EEZ、主張出来ないんです。国際法に書いてあります。でも、日本は無視している。ものの背景、もうちょっと調べるべきではないかと思っています。



結論は、日本はまだ経済の面でいろいろ可能性が残っている。問題は、戦略性が足りない。だから、もうちょっと戦略的に。日本人はグループの中で行動したい。それで、ムードに余計に影響されやすいんです。もうちょっと、自主的にものを決めるべきなんです。